

A.材料と加工に関する技術 P.18・19より

(1) 学習指導の実際

①題材名 箱イスの製作 (第一学年)

②学習の展開

学習内容	学習活動	指導・評価(◎)
1 かなについて知り、木材を削ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> • かなの仕組みについて知る • 削り台の使い方を知る • 示範を見た後1回目の削りを行い、切削面の様子からかなの使い方の課題を考える 	<ul style="list-style-type: none"> • 各部の名称を知らせ、学習ノートP18にまとめる • かながけの方法を伝え、脚材の木口面をかなで削る • かなの刃の出は事前の調整をしておく ◎かなの名称や仕組みを理解することができたか。【知識】
2 かな削りをして、仕上がり寸法線まで削ろう。(木口削り)	<ul style="list-style-type: none"> • 前時の課題について自分なりの解決の方法を考え2回目のかな削りを行う • ペアで観察やアドバイスをし合ったり、全体で方法を探る活動からより良い方法を考える 	<ul style="list-style-type: none"> • 1回目の削りの課題から、解決の方法の見通しを考え、学習ノートP19に記入させる • 2回目の削りで自分が考えた方法を試し削った状態を観察する(割れ・直角) • 友達との意見交換を参考にしながら3回目の削りを行う ◎自分の考えた解決の方法を発表し合ったり友達のアドバイスを参考により良い方法を見つけることができた【技能】
3 脚材の形を整えよう。(木端削り)	<ul style="list-style-type: none"> • 前時までの解決方法やさらに気づいた課題を追究しながら、各自で仕上がり線までかな削りを行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 個々の作業を進め、かながけの技能の習得を目指す。気づいたことなどは随時、学習ノートP19に記入させる。 ◎材料の繊維方向に気をつけ、かなの動かし方や刃の調整に留意して正しくかながけできているか【知識・技能】

「課題解決学習用のシート」を利用して、自分が学習したことやペアで見合っただけ気づいたことなどをノートの記述させる。文章だけでは表記しにくい部分もあるので図を積極的に用いること指導した。

試して、調べて、確かめてみて気づいたこと

かなの刃は、刃の出方を工夫すること。また、かなを木にあてる力と、力の入れかたを工夫することで木にできるということが分かりました。

かなの刃を出しすぎてしまうと、出さなすぎてきたためということが分かりました。

いい感じに刃がでていたり、あまり力をいれなくても、とんとんけられるし、なめらかにけられるということが分かりました。

1回目のかな削りからうまくできなかった事をどう解決するのか具体的に考え(課題)、実際に試した(追究)結果を記入した。技術的な事柄を文章で表現することは難しいが、**図を利用することで自分の考えを表現することができた。**

試して、調べて、確かめてみて気づいたこと

かな削りは、かな削りでも、場所によって刃削りがある。

木目ぞうりにけする  (こが削り)は、(は)りくさか  と呼ばれるけど、

木目は木目には  (こが削り)は、(は)りくさか  と呼ばれる

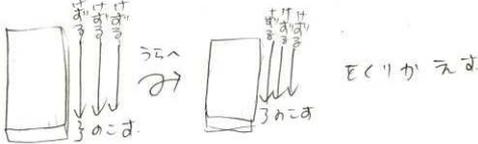
図示することでまとめやすく、また発表する際も教材掲示装置等を利用し拡大投影することでクラス全体で共有しやすい。

見せあい、比較し、助言しあい良かったこと

やっぱり、個人差があるんたいなということが分かりました。
私も最初は全然 かななの使い方も刃の出しくあいというの
のから分からなからたんであげて、「もってかを抜いた方が
いいよ」とか「まっとうを出した方がいい！」とかコツをいって
くれたので、すごく上手にできました。

追究場面でペアとの関わり合いを持たせ、見合ったり助言し合うことでより追究が深まった。

② 木の はしごが 割れてしまったため方法

例) 

図示することで考えを整理しやすくなっているが、より正確な図が書けるように指導していく必要がある。
※かんながけについて例を挙げると、木目の方向や木表・木裏の関係など

- 「課題解決学習用のシート」を利用することで新学習指導要領に新たに位置づけられた「言語活動の充実」を図ることができる。文章や言葉や図等を用いて考えをまとめたり、説明したりできる。
- 単元展開の関係で、課題解決シートを利用しない場合は、オリジナルの学習カードをページ上に貼り付ける（A4の用紙を一回り小さくする）などして学習した成果を残していくことで学習の成果を残していくことも可能になる。